

地域社会学会会報

No.252 2026.7.1

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒982-8595 名取市ゆりが丘 4 丁目 10-1 尚絅学院大学 高木竜輔研究室内
TEL 022-381-3386(直) 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <https://jarcs.smoosy.atlas.jp/ja>

◆…………… 〈 会報 252 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 『地域社会学会年報』第 39 集の自由投稿論文を募集します。詳細は 6 ページをご覧ください。
- 2) 2026 年度地域社会学会賞の推薦が始まります。詳細は 7 ページをご覧ください。
- 3) 2026 年度の会費納入をお願いします。2023 年度より SMOOSY によるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認をお願いします。

目 次

- 7 月 26 日（日）開催の第 1 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い
1. 前期理事会からの報告
 2. 選挙管理委員会からの報告
 3. 理事会からの報告
 4. 研究委員会からの報告
 5. 編集委員会からの報告
 6. 地域社会学会選考委員会からの報告
 7. 国際交流委員会からのお知らせ
- ほか、事務局からの報告とお知らせなど

2026 年度 第 1 回研究例会のご案内

日時 2026 年 7 月 26 日（日） 13:30～16:30

会場 立教大学池袋キャンパス 5 号館 1 階 5121 教室

（対面と ZOOM によるハイフレックス形式）

※アクセス方法等は、開催 2 日前をめぐに、会員メーリングリストで配信します。

第 1 報告 矢部拓也（徳島大学）、原田峻（立教大学）

「環境変動適応と地域社会——第 51 回大会シンポジウムの成果と課題」（仮題）

第 2 報告 中澤秀雄（上智大学）

「Carbon Democracy と Planetary GCRsation からの離陸——今期研究委員会の序奏」（仮題）

7月26日（日）開催の第1回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

① 会場にご参加のみなさま

会 場：立教大学池袋キャンパス 5号館 1階 5121 教室 ※西側の小門からお入りください
東京都豊島区西池袋 3-34-1

アクセス：JR 各線・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ丸ノ内線/有楽町線/副都心線
「池袋駅」下車。西口より徒歩約7分。

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/>

Wi-Fi 環境：eduroam による接続が可能です。

<会場周辺地図>



② オンラインでの参加のみなさま

今期より、諸事情により Zoom ではなく Microsoft Teams を用います。

<事前の準備のお願い>

- ◆ 事前に Microsoft Teams のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆ Teams のアクセス方法等は、開催2日程度前をめぐに、会員メーリングリストで配信します。
なお、当日になっても学会事務局からの案内メールが届かない場合には、事務局メール (jarcs.office@gmail.com) にご連絡ください。

- ◆ Teams の参加リンクは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆ 会議開始 5 分ほど前から入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせ等で入室可能時間が前後することがあります。
- ◆ 会議に入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作を行うことがあります。
- ◆ 表示名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆ 研究例会は、研究委員会が記録用に録画する場合があります。接続・参加をもって録画に承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が会議画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

- ◆ 報告者から当日配布資料があるときは、Teams のチャット機能を利用して配布します。
- ◆ 配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

<質問・発言について>

- ◆ 以下のいずれかの方法でお願いいたします。
- ① Teams の「手を挙げる」機能を使用
- ② チャットに質問内容を書き込む
- ③ チャットに、質問がある旨を書き込む

<終了後の交流時間について>

- ◆ オンライン開催では交流時間を設けてきましたが、現在はハイフレックス開催のため、オンラインでの交流時間は設けておりません。

<当日の操作に関する相談窓口>

- ◆ 当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、操作に関する相談窓口を設けます。メールでご連絡ください。

<当日サポートセンターの連絡先>

- ◆ メールアドレス r_takaki [アット] shokei.ac.jp （[アット]を@にしてください）。
- ◆ 当日配布資料の再配布はありません。

<問い合わせ先>

- ◆ 当日の操作に関すること以外は、研究委員長（平井太郎、of-hirai [アット] hirosaki-u.ac.jp （[アット]を@にしてください））までメールでお問い合わせください。

1. 前期理事会からの報告

(1) 2025 年度第 6 回理事会報告

2025 年度第 6 回理事会は 2026 年 5 月 17 日にオンラインで行われました。出席者は以下のとおりです（敬称略）。

小山弘美、齊藤麻人、阪口毅、佐藤洋子、清水洋行、武田俊輔、辻岳史、野坂真、平井太郎、藤井和佐、前島訓子、町村敬志、松宮朝、三浦倫平、室井研二、望月美希、矢部拓也、山口博史、渡邊隼

理事会では報告事項 9 件と審議事項 9 件が議論されました。

（前期庶務理事 齊藤麻人）

(2) 総会報告

2026 年 5 月 23 日（土）17 時 15 分～18 時 30 分まで弘前大学において、地域社会学会総会が開催されました。総会では吉野英岐会員が座長として選出され、会長挨拶、研究委員会報告、編集委員会報告、国際交流委員会報告、地域社会学会賞選考委員会報告、GEAHSS 担当からの報告、事務局報告が行われました。続いて、2025 年度会計決算についての説明が事務局からあり、監事による監査報告が行われました。2026 年度予算案についても同様に説明が行われ、決算、予算案ともに原案通り承認されました。

また、地域社会学会の出版事業（地域社会学会講座）についての提案と研究例会の開催回数についての提案が事務局から行われ、質疑応答の結果、提案のとおり承認されました。

最後に藤井和佐会長より、第 52 回大会（2027 年開催）について、立教大学新座キャンパスにて開催されることが報告されました。

（前期庶務理事 齊藤麻人）

2. 選挙管理委員会からの報告

理事の改選にあたり、5 月 23 日から 24 日に開催された地域社会学会第 51 回大会会場にて、理事選挙が行なわれました。選挙の実施体制は以下の通りです。

選挙管理委員長：清水洋行

選挙管理委員：小山弘美、前島訓子

選挙管理員：伊藤雅一、新藤慶

開票立会人：齊藤麻人、渡邊隼

投票者数は 53 名でした。投票の結果、得票数上位 10 名が理事に選出されました（五十音順）。なお、第 10 位に 3 名が同数で並んだため、当該 3 名の中から抽選により 1 名を選出しました。

阪口毅（立教大学）、庄司知恵子（東北福祉大学）、高木竜輔（尚絨学院大学）、武田俊輔（法政大学）、玉野和志（放送大学）、中澤秀雄（上智大学）、藤井和佐（摂南大学）、丸山真央（大阪大学）、矢部拓也（徳島大学）、平井太郎（弘前大学）

（選挙管理委員長 清水洋行）

3. 理事会からの報告

(1) 2026 年度第 1 回理事会報告

2026 年度地域社会学会第 1 回理事会は、2026 年 5 月 24 日（日）の 11 時 30 分から 12 時 20 分まで、弘前大学にて開催されました。ここでは、審議事項として 8 件が議論されました。

出席（10 名、敬称略）：阪口毅、庄司知恵子、高木竜輔、武田俊輔、玉野和志、中澤秀雄、藤井和佐、丸山真央、矢部拓也、平井太郎（オブザーバー：齊藤麻人（24-25 期庶務理事））

審議事項は以下の通りです。

- ①会長の互選
 - ②庶務担当理事の互選
 - ③理事の各種委員会委員・担当の選任
 - ④推薦理事候補について
- ほか

話し合いによる理事、ならびに新理事の役割分担については以下の通りです。

<話し合いによる理事（10名）>

伊藤亜都子（神戸学院大学）、齊藤綾美（福山市立大学）、齊藤麻人（横浜国立大学）、新藤慶（群馬大学）、祐成保志（東京大学）、田中里美（都留文科大学）、二階堂裕子（ノートルダム清心女子大学）、野坂真（青森公立大学）、原田峻（立教大学）、三浦倫平（横浜国立大学）

<新理事の役割分担>

会長	玉野和志
庶務担当（事務局統括）	高木竜輔
財務担当（事務局）	庄司知恵子
WEB担当（事務局）	阪口毅
研究委員長	平井太郎
研究委員	祐成保志（副委員長）、伊藤亜都子、阪口毅、武田俊輔、中澤秀雄、原田峻、三浦倫平
編集委員長	丸山真央
編集委員	新藤慶（副委員長）、齊藤綾美、田中里美、二階堂裕子、野坂真
国際交流委員長	武田俊輔
国際交流委員	齊藤麻人
学会賞担当	二階堂裕子
社会学系コンソーシアム担当	矢部拓也
GEAHSS 担当	藤井和佐
地域社会学講座担当	中澤秀雄
学会賞選考委員長	新原道信（中央大学 非理事）
監事	吉野英岐（岩手県立大学）、齊藤康則（東北学院大学）

（庶務担当理事 高木竜輔）

(2)臨時総会報告

2026年5月24日12時30分から12時50分まで臨時総会が行われました。新理事会から、会長として玉野和志会員、庶務担当理事として高木竜輔会員が提案され、了承されました（会則第16条3の規定による総会承認）。

（庶務担当理事 高木竜輔）

4. 研究委員会からの報告

新・研究委員長の平井太郎です。弘前大会では大変ありがとうございました。その節もありました懸案の研究例会体制は、学会の研究の質・量をいっそう高めるのに最善を尽くします。ジャーナルへの御寄稿とあわせ、全世代の会員みなさまのご参画を何卒宜しくお願い申し上げます。

6月25日（木）に第1回委員会を開催し、今期の研究テーマと年次計画等を検討しました。それらにつきましては理事会で承認を得た後、追ってお知らせします。

第1回研究例会は7月26日（日）に開催します。第1報告は矢部拓也さんと原田峻さんから先だつての大会シンポジウムを総括していただきます。第2報告は中澤秀雄さんから今期の研究テーマの序奏となるご報告をいただきます。最新の『社会学評論』特集への御寄稿をベースにしたものです。みなさまとの熱い議論を心待ちにしています。

以降、2026年度は次のように研究例会を開催します。会場ご提供くださったみなさまに心より感謝申し上げます。一人でも多くの会員のみなさま、現地での議論に加わっていただき、ともに切磋琢磨してまいりましょう。

第2回 10月3日（土） 東洋大学

第3回 12月13日（日） 名古屋大学

第4回 2月14日（日） 東京大学（本郷キャンパス）

（研究委員長 平井太郎）

5. 編集委員会からの報告

このたび編集委員会委員長を仰せつかりました丸山真央です。経験も注意力も不足しており任に堪えるのか不安ですが、幸い、これまでの編集委員会のご尽力により、年報の編集も査読もシステムが整備されておりますので、編集委員の皆様の方をお借りしながら、何とか任を果たしていきたいと存じます。

さて、年報第38集は、2025年度会費納入済会員には東信堂から直送され、7月ごろに到着になる見込みです。会費納入がまだの会員の皆様につきましては、2025年度会費納入が確認された方から順次郵送される予定です。

それから、早速ではありますが、年報第39集（2027年5月発行予定）の原稿を募集します。下記の要領に従って、積極的な投稿をお願いします。自由投稿論文は、他のカテゴリーに比べて締め切りが早いのでご注意ください。〈ビューポイント〉〈名著再発見〉〈研究紹介〉の各カテゴリーについても投稿をお待ちしています。いずれも電子ファイルのみの提出になります（郵送での提出は不要です）。投稿規定・執筆要領・著作権規定をご確認のうえご投稿ください。

<年報第39集原稿募集要領>

1. 自由投稿論文：タイトル・執筆者氏名・本文・図表・注・引用文献を含めて、年報掲載時に14ページ以内（1ページは41字×38行で1,558字）に収まるものとします。編集上必要なデッドスペースを差し引いて、上限字数は21,402字（41字×522行）です。図表等については編集上十分なスペースを確保してください。なお英文要旨は掲載決定後に、300語以内で作成して頂きます。自由投稿論文の締め切りは**2026年9月30日（水）必着**です。
2. 書評（依頼）／自著・自訳書・編著書紹介（依頼）／研究紹介：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に2ページ以内となる2,870字（41字×70行）に収まるものとします。原稿の締め切りは2026年10月末日です。
3. ビューポイント／名著再発見：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に4ページ以内となる5,986字（41字×146行）に収まるものとします。原稿の締め切りは2026年10月末日です。
4. いずれの原稿もEメールの添付ファイルにて電子ファイルでご提出ください。メール本文に氏名・住所・電話番号・電子メールアドレスを明記してください。
5. 「執筆要領」で明文規定している以外のルールは『社会学評論スタイルガイド』に準拠することになります。この点、くれぐれもご注意ください。
6. 自由投稿論文については、300語程度の英文要旨を掲載することになります。英文要旨は、編集委員会で論文審査が終了した後に提出して頂きます。英文校閲は編集委員会でおこなう予定です。
7. 原稿の提出先（編集委員長・丸山真央）E-mail: maruyama.masao.hus [アット] osaka-u.ac.jp ←[アット]を@に変えて下さい。

（編集委員長 丸山真央）

6. 地域社会学会選考委員会からの報告

2026 年度の学会賞の選考が始まります。

(1) 地域社会学会賞には、以下の 5 種類の賞があります。

1. 学会賞

①個人著作部門、②共同研究部門

2. 奨励賞〔大学院修士課程修了 15 年以内の者を対象〕

③個人著作部門、④共同研究部門、⑤論文部門

(2) 対象業績は、2025 年 6 月 1 日から 2026 年 5 月 31 日までに刊行された業績です。

(3) 推薦期間は、2026 年 8 月 1 日（土）から 9 月 30 日（水）の間です。

(4) 推薦委員による推薦のほか、会員の自薦・他薦もあります。選考委員長の新原道信宛に **2026 年 9 月 30 日（水）必着** をお願いします。自薦の場合は、刊行物 1 点も送付してください。

(5) 送付先 E-mail : sardo.87k [アット] g.chuo-u.ac.jp （ [アット] を @ にしてください）

郵送：〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1 中央大学文学部 3 号館 3804 新原道信宛
(TEL：042-674-3804)

(6) 推薦にあたっては、学会賞規定に沿った基準で選んでいただき、以下を記してください。①学会賞、奨励賞の区別、②対象研究成果の題目、発行年月日、発行所あるいは掲載雑誌名・巻号、③著者・編者・編著者の氏名、所属、職位・学年次、奨励賞の場合は修士課程修了の有無と修了年月（詳細不明の場合は事務局で調査します）、④推薦者氏名、⑤推薦理由（300 字以内）。Mail の場合は、word ファイルをお願いします。

(7) 2026 年度の選考委員（8 名）は、新原道信（重任）、吉野英岐（重任）、丹邊宣彦（重任）、小浜ふみ子（重任）、清水亮（重任）、清水洋行（重任）、文貞實（重任）、二階堂裕子（新任）。委員長は新原が務めております。推薦委員（8 名）は、任期中（2 年間）は非公開で、任期の終了後に「会報」で公開しています。

（学会賞選考委員長 新原道信）

7. 国際交流委員会からのお知らせ

新しく国際交流委員長を務めることになりました武田俊輔です。今期の委員会は、私のほか齊藤麻人会員・武岡暢会員で構成されることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

近く開催される RC21 について案内させていただきます。2026 年 7 月 20 日～22 日にオーストリア・ウィーンで開催されます。RC21 Conference の参加登録期間は 7 月 17 日が締切となっております。詳細は <https://rc21-vienna2026.org> よりご確認ください。

また ISA 以外のお知らせとなりますが、ヨーロッパの日本研究で地域社会学・都市社会学にも関係する研究者が多く集まる学会として、EAJS（European Association for Japanese Studies、ヨーロッパ日本研究協会）があります。3 年に 1 度行われるその大会 EAJS2026, the 18th International Conference of the European Association for Japanese Studies が、2026 年 8 月 27 日～30 日にポーランド・ポズナンで開催されます。Early Bird registration が 7 月 5 日までですが、それ以降も参加登録は可能です。プログラムも含む詳細は <https://eajs.eu/eajs2026-conference/> よりご確認ください。

（国際交流委員長 武田俊輔）

8. 50 周年事業委員会からの報告

2023 年度より地域社会学会 50 周年記念事業として始まった「若手会員の地域調査・研究ワークショップ」は、2026 年 4 月に報告書『日立市・淡路市における企業と地域』を刊行し、3 年間の活動を終わりました。若手会員を広く募集し当初 21 名でスタートし、結果 19 名で完走することができました。今後もこの成果をもとに、研究は継続していく予定です。これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

報告書につきまして、PDF または冊子の報告書を会員向けに配布を行っています。ご希望がございましたら、下記担当者までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

（50 周年記念事業若手 WS 担当 小山弘美・佐藤洋子・前島訓子）

9. 「地域社会学講座」企画について

第51回大会総会にて、新『地域社会学講座』3巻（東信堂より刊行）の企画と予算が承認されました。あわせて以下の編集委員の陣容も承認されました。編集委員による初回会合を6月18日（木）に開催し、今後のスケジュール等を確認いたしました。各巻の章の数は15章弱となる見込みで、編集委員により趣旨等を詰め、8月末にかけて執筆候補者にご打診を差し上げる予定です。正式執筆依頼は本年9月末、刊行は2028年末を目途とします。

設立50年を経過した地域社会学の成果を示す本企画にご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

【編集委員】 *は編集チーフ

第1巻 金澤良太、佐藤洋子、新藤慶、*中澤秀雄、西村雄郎、原田峻

第2巻 小山弘美、阪口毅、*玉野和志、二階堂裕子

第3巻 齊藤麻人、前島訓子、*町村敬志、丸山真央、室井研二

なお、5月24日に開催された第1回理事会において、中澤が「地域社会学講座」担当理事に選出されました。今後、東信堂との連絡をはじめ、遺漏なく企画が進行するよう務めて参ります。関係各位にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（担当理事 中澤秀雄）

10. GEAHSS からの報告

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（略称 GEAHSS、ギース）は、人文社会科学分野でのアーリーキャリア・女性研究者支援と、研究分野を超えた連携のもとで人文社会系の学術の発展をめざすことを目的とした団体です。地域社会学会は2023年に加盟しました。

主な活動は、①学協会におけるジェンダー平等に関するグッド・プラクティスの共有、②学協会におけるジェンダー平等状況把握のための実態調査の実施、③年1回程度のシンポジウムの開催です。その他、年2回運営委員会が開催され、GEAHSS 担当が委員会に出席しています。

GEAHSS では、2028年に第3回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査を実施する予定です。本調査は、加盟学協会のジェンダー平等状況の把握のために行っており、そのデータをもとに政策提言も行っています。6月30日を締切として取りまとめております調査項目についてご検討いただいたみなさま、どうもありがとうございます。本調査の実施は2028年度に行われますので、その際にもご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

また GEAHSS では、アーリーキャリア期の問題にも力を入れて取り組んでいます。アーリーキャリア・ワーキンググループの活動に参加したい方がいらっしゃいましたら、GEAHSS 担当までご連絡ください。

（前期担当理事 佐藤洋子）

11. 地域社会学会第51回大会会計報告

地域社会学会第51回大会 会計報告（弘前大学）を以下の通り行います。

大会参加者 事前登録99名、当日5名、弘前大学11名 計115名

収入	Peatix 経由	583,000 円	エクスカーショ 2,000 円×30 名 大会一般参加 2,000 円×82 名 大会院生参加 1,000 円×17 名 交流会一般参加 6,000 円×54 名 交流会院生参加 3,000 円×6 名
	当日受付	27,000 円	エクスカーショ 2,000 円×1 名 大会一般参加 2,000 円×5 名 交流会一般参加 6,000 円×2 名 交流会院生参加 3,000 円×1 名
	学会補助金	300,000 円	学会大会運営補助
		計 910,000 円	

支出	Peatix 手数料	47,488 円	振込手数料 210 円含む
	託児委託料	100,000 円	
	交流会費	420,000 円	弘前大学生協
	ランチボックス準備費	118,000 円	1 日目 41 名、2 日目 18 名、計 59 名
	学会補助金返金	224,512 円	学会大会運営補助に対し
		計 910,000 円	

※弘前大学から使用料免除、消耗品費・印刷費・学生謝金について援助を受けた。

(大会校担当 平井太郎)

12. 地域社会学会 2025 年度決算報告ならびに 2026 年度予算

地域社会学会 2025 年度決算報告ならびに 2026 年度予算は以下の通りです。

経常会計				
	項目	2025 年度予算	2025 年度決算	2026 年度予算
	1 前年度繰越金	7,125,275	7,125,275	8,387,064
	2 会費収入	1,951,200	3,314,500	(注 1) 2,070,000
	3 大会会計繰越金	0	255,323	0
	4 雑収入	0	8,645	0
	5 基金より繰入	0	0	149,146
収入合計		9,076,475	10,703,743	10,606,210
1 研究活動費		230,000	162,691	350,000
	(会場費)	40,000	0	40,000
	(事務・通信費)	10,000	56,958	10,000
	(謝礼・交通費)	180,000	105,733	300,000
2 委員会・理事会費		360,000	107,010	360,000
	(会場費)	10,000	0	10,000
	(事務・通信費)	40,000	19,800	40,000
	(交通費)	250,000	87,210	250,000
	(人件費)	60,000	0	60,000
3 事務局費		1,146,000	580,268	1,151,000
	(人件費)	50,000	0	50,000
	(通信費)	380,000	168,534	380,000
	(Smoosy 利用料)	396,000	396,000	(注 2) 396,000
	(消耗品)	60,000	734	60,000
	(交通費)	240,000	0	240,000
	(学術会議関係)	10,000	15,000	15,000
	(会議費)	10,000	0	10,000
4 会報発行費		20,000	0	20,000
	(印刷費)	10,000	0	10,000
	(発送費)	10,000	0	10,000
5 年報費		1,080,000	838,710	1,080,000
	(買い上げ分)	900,000	838,710	1,080,000
	(年報発送費)	180,000	0	-
6 大会補助費		700,000	628,000	400,000
	(大会補助金)	400,000	400,000	200,000

	(大会特別補助)	200,000	200,000	100,000
	(大会時託児補助)	100,000	28,000	100,000
7 名簿発行費		0	0	0
	(調査費)	0	0	0
	(印刷費)	0	0	0
8 特別事業費		0	0	0
	(50 周年記念)	0	0	0
	(ISA 関連)	0	0	0
9 将来計画基金		0	0	1,500,000
	(基金積立金)	0	0	1,500,000
10 予備費		5,540,475	0	5,745,210
	(予備費)	5,540,475	0	5,745,210
支出合計		9,076,475	2,316,679	10,606,210
	残高		8,387,064	
	次期繰越金		8,387,064	

注 1 2026 年度会費収入は 2026 年度中の納入が予想される金額。2026 年 4 月末時点での一般会員 335 名、院生会員 42 名への年会費請求総額 2,587,500 円（2025 年度以前の過年度未払い分を含む）のうち 80%が納入されるとの想定。

注 2 Smoosy 利用料（月 33,000 円）が 1 年間ごとの一括払いであるため、2025 年度の利用料の一部を併せて反映。

（前期財務担当理事 渡邊隼）

13. 会員異動（敬称略）

新入会員、退会会員、会員資格喪失者、終身会員について、以下の通りです（以上、2026 年 5 月 17 日理事会で承認）。

<新入会員>

大野千緒（東京都立大学大学院）青森県原子力関連施設周辺地域住民の受苦の研究（紹介者：横山智樹）

岩本萌愛（東京都立大学大学院）白神山地の自然資源の保全（紹介者：横山智樹）

児浦良裕（高崎経済大学大学院）若者が関わりやすい地域コミュニティの境界域（紹介者：佐藤彰彦）

井上広夢（東北大学大学院）インドネシアにおける学校外教育（紹介者：佐藤彰彦）

荻堂志野（東京大学大学院）都市空間における記憶の構築や忘却（沖縄市・コザ）（紹介者：新原道信）

押味晃司（中央大学大学院）都市再開発における商店街と住民組織に関する研究（東京都自由が丘）（紹介者：新原道信）

斎藤仁史（北海学園大学大学院）北海道の小規模自治体における内発的発展に対する社会教育の影響について（紹介者：内田和浩）

韓敬愛（埼玉大学）都市下層研究（東京・山谷）（紹介者：齊藤麻人）

<退会会員>

八木敏昭（新潟大学）

立木茂雄（同志社大学）

大西康雄（山梨県立大学）

小谷和彦（自治医科大学）

<会則 6 条規定（会費未納 3 年以上）による会員資格の喪失者>

小平隆夫
高橋一馬
藤山浩
森久聡

（前期庶務担当理事 齊藤麻人）

14. 事務局からの報告

(1) 会費納入状況

2026 年 4 月末時点で 2025 年度分の会費は 351 人分が納入されており、終身会員をのぞく会員 377 人に対する納入率は 93.1%でした。

（前期財務担当理事 渡邊隼）

(2) 会報 252 号の発行

学会 HP にて会報 252 号（今号）が発行されました。

（庶務担当理事 高木竜輔）

15. 事務局からのお願いとお知らせ

(1) 2026 年度会費納入のお願い

2026 年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願いいたします。2023 年度より Smoosy によるクレジットカード決済を原則としています。

なお、諸事情により郵便局での払い込みを希望される方は、郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2026 年度会費」を明記の上、会費（一般会員 6,500 円、院生会員 5,000 円）のご送金をお願いします。

2026 年度分の会費の振込確認ができた会員には『地域社会学会年報』第 38 集をお送りします。

（財務担当理事 庄司知恵子）

(2) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2025 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 HP サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメール（あるいはファックス）でお送りください。ご協力よろしくお願いいたします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

（庶務担当理事 高木竜輔）

16. 会員の研究成果情報(2025 年～)

2024 年度〔書籍・分担執筆〕

北川由紀彦・山本薫子・山口恵子・玉野和志編, 2025, 『社会をひもとく——都市・地域にみる社会問題の問い方』有斐閣.

2025 年度〔論文〕

清水洋行, 2026, 「「組織連関型中間支援」から「プラットフォーム型中間支援」への展開に向けて」『人文研究』（千葉大学）55: 81-104.

玉野和志・金澤良太・前田悟志, 2026, 「メッシュデータにもとづく都市地域（mdbUA2010）による全国都市の趨勢分析——メッシュデータによる都市地域分析 その 2」『人文学報』No. 521-1 社会学 60: 23-40.

2025 年度〔その他〕

玉野和志, 2026, 「これからの地域運営における地縁組織の役割と可能性」『都市計画』74(3): 374.Vol. 74, No. 3 (374).

17. 理事会のご案内

第2回理事会

日時：7月26日（日）10：30～12：30

立教大学池袋キャンパス 5号館1階 5121教室

（対面と Teams によるハイフレックス形式）